

2023年9月

知財管理システム アップデート説明会

株式会社root ip

新バージョンへの切替状況

切替状況	割合
切替済／切替予定	72%
旧バージョン継続希望 (カスタマイズ／独自DX維持等)	0%
未返信	28%

切替対応方針 2023年10月1日以降

- 切替申請あり
 - 新バージョンに切替
 - URLの接続先が新バージョン
 - 旧バージョンも利用可能
 - <https://xxx.v1.rootip-enterprise.net>
 - カスタマイズ機能：今までどおり利用可能
 - その他標準機能：閲覧のみ推奨
- 切替申請なし／旧バージョン希望
 - 旧バージョン維持
 - URLの接続先は旧バージョンのまま
 - 最長1年間の予定（2024年9月末まで）
 - アップデート原則なし
 - 新バージョンアップデートが表示に影響する
 - データベースは新旧共通なため
 - 新バージョンは利用不可

新バージョン操作確認方法

- 旧バージョン設定メニューに新バージョントライアル環境へのリンクあり



- 新バージョン全機能利用可能
- データは直近日曜時点で毎週本運用データで上書き
- 操作は本運用データに影響しない

新バージョン導入の目的

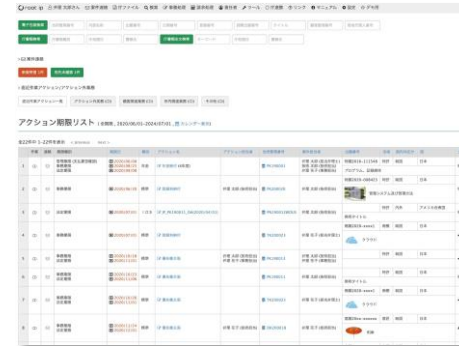
VISION
企業理念



知財業務効率化の極限へ

本来業務への集中 & より強い権利取得をサポート

旧バージョン 2014年 開発開始



基盤技術が古い
一部コードが複雑化

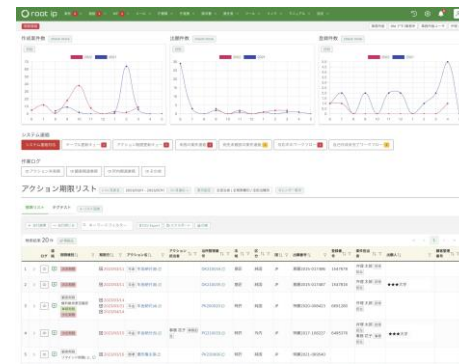


まだ使えるが
成長スピードが遅くなる



更なる効率化のため

新バージョン 2022年 開発開始

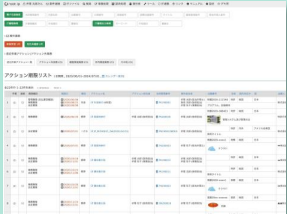
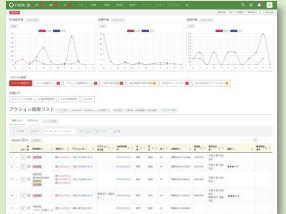
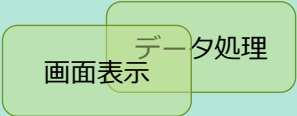
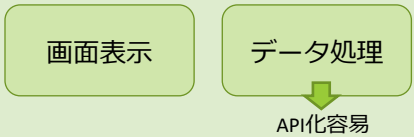


同等の機能は維持
コードは全て書き換え



操作感は多少変わる
成長スピードが加速する

システムアーキテクチャ

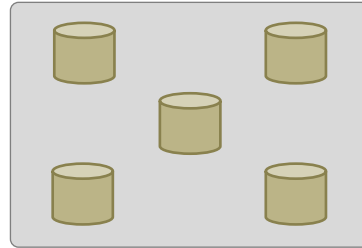
	ネイティブアプリ 旧来型システム	root ipクラウド 旧バージョン	root ipクラウド 新バージョン
ユーザ画面			
OS依存なし	×	○	○
端末／サーバ管理不要	×	○	○
メンテナンス性	×	○	◎
拡張性	×	○	◎
高機能化	○	△ 表現力が弱い	○ 最新表示技術採用
DX対応／API化	×	△ 一部プログラムが複雑化 	○ プログラム構造を整理 

root ip 効果／発展性

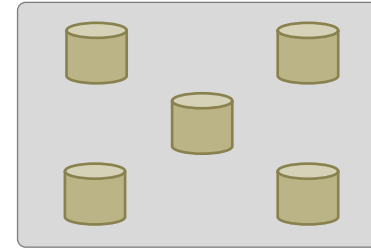
導入前

目の前の仕事に追われ本業の時間が削られる
本業サポートの仕組みがない

企業



事務所

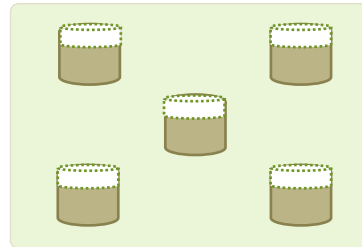


Step1 組織内効率化

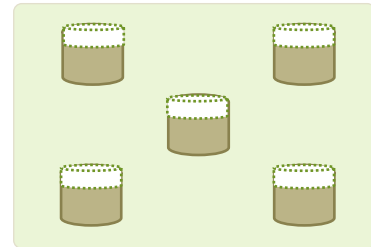
余裕時間が生まれる
ツール活用で生産性UP



余裕時間



余裕時間

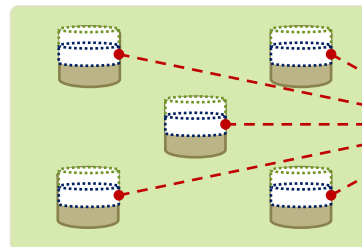
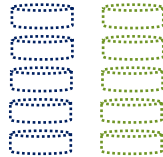


Step2 NWによる効率化

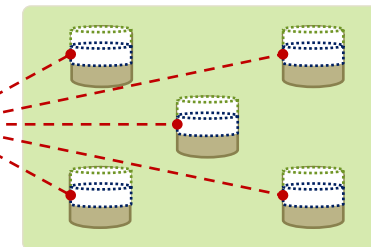
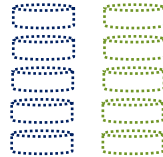
NW拡大により余裕時間が増える
ツール活用でさらに生産性UP



余裕時間



余裕時間



企業版/事務所版を完全一体化したアーキテクチャにより
組織を超えた業務効率化を実現

新バージョン機能

root ip 機能ブロック

ユーザ環境



関連サービス



root ip 機能ブロック 旧バージョン

ユーザ環境



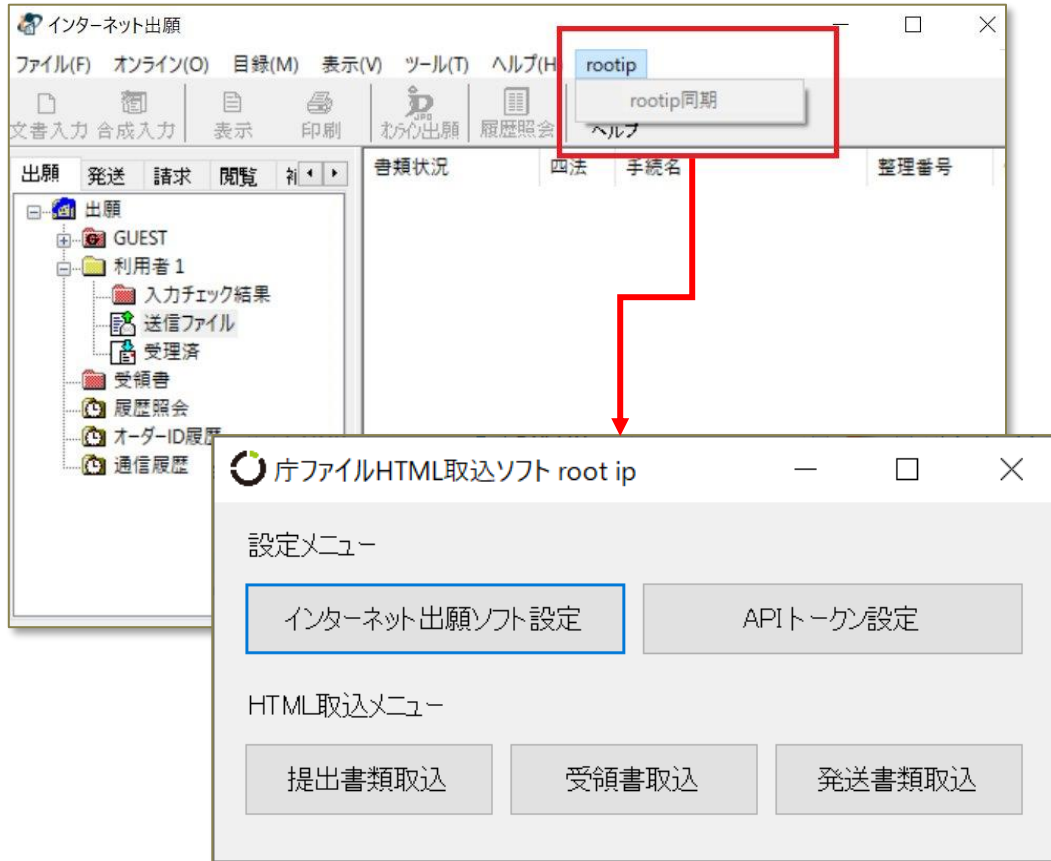
関連サービス



機能アップデート内容

- メール送信
 - 直接メールを送信可能
- 連携ソフト
 - インターネット出願ソフトからファイルアップロード可能
- 帳票発行
 - オプション類（IFオプション、ブロック）を共通化
 - レター以外のメール、請求書、WF、案件連絡も対応
 - Excel対応
- インポート／エクスポート
 - 対象拡大
- 検索機能
 - 履歴保持
- 集計機能
 - チャート、集計条件増
- 各種API

インターネット出願ソフト 連携ソフト



特許情報フェア@東京ビッグサイト 9月13日-15日にて公開



案件図面キ्यू

特許／実用／意匠／商標の出願書類から案件図面の取り込みキューを作成
【図1】 【正面図】など見出しも取り込み

キュー処理実行 検索結果 1 件 再読込 表示項目選択 印刷						
キュー登録日↓	ユーザ↓	当所整理番号↓	テーブル名↓	トリガ情報↓	新データ↓	
2023/09/05	井藤 太郎	PK190001	案件図面	序ファイル取込	図タイトル_1:図 1 図タイトル_2:図 2 図タイトル_3:図 3 図タイトル_4:図 4 図タイトル_5:図 5 図タイトル_6:図 6 図タイトル_7:図 7 図タイトル_8:図 8 図タイトル_9:図 9 図タイトル_10:図 10 図タイトル_11:図 11 図タイトル_12:図 12 図タイトル_13:図 13 図タイトル_14:図 14 図タイトル_15:図 15 図タイトル_16:図 16	

代表図も自動取り込み

PK190001

メモ



PK230133

案件情報

データ ファミリー アクション 序書類 ファイル 図像 レター メール 連絡 WF 請求書 経費 収入 ログ 権限

案件図面

代表図の指定がない場合、先頭の図像が代表図として扱われます。

代表図 F 図1

図2

図3

図4

図5

図6

図7

図8

知財DX基盤としてのroot ip

ハズレのない知財DX

1. DXの限界を意識する
2. 業務フローを見直す
3. 独自DXは最小限に

DXの限界を意識する

知財の本質的な競争力

「知財戦略の中身や弁理士の腕」 = 人間の思考が大事

「システムがすごい = 競争力が高い」と単純にいけない

ポイント

「すごい独自システムを作る！」前に

「まず明らかな無駄を減らす」方が確実

業務フローを見直す

共通フローを意識

知財業務には法律に基づく共通のフローがある

市販システムは共通のフローに基づき開発されている

組織の業務フローを共通のフローに基づき整理すると無駄がない

ポイント

市販システムのフロー／機能を「使い倒す」運用が効率的

独自フローは目的／効果／コストを慎重に判断

独自DXは最小限に

独自DXの課題

独自システムを「長期間」「トラブルなく」運用することは想像以上に難しい
「すぐ使わなくなる／陳腐化する／優れた代替品がでてくる」ことも多い
メンテナンスコストは必ず発生し「時間／お金／人」に大きく影響する

ポイント

独自DXをなくす／減らすには発展性ある市販システムの選択が重要
root ipは自ら発展し、クライアント独自のDXもサポート

root ip 機能ブロック カスタマイズ箇所

ユーザ環境

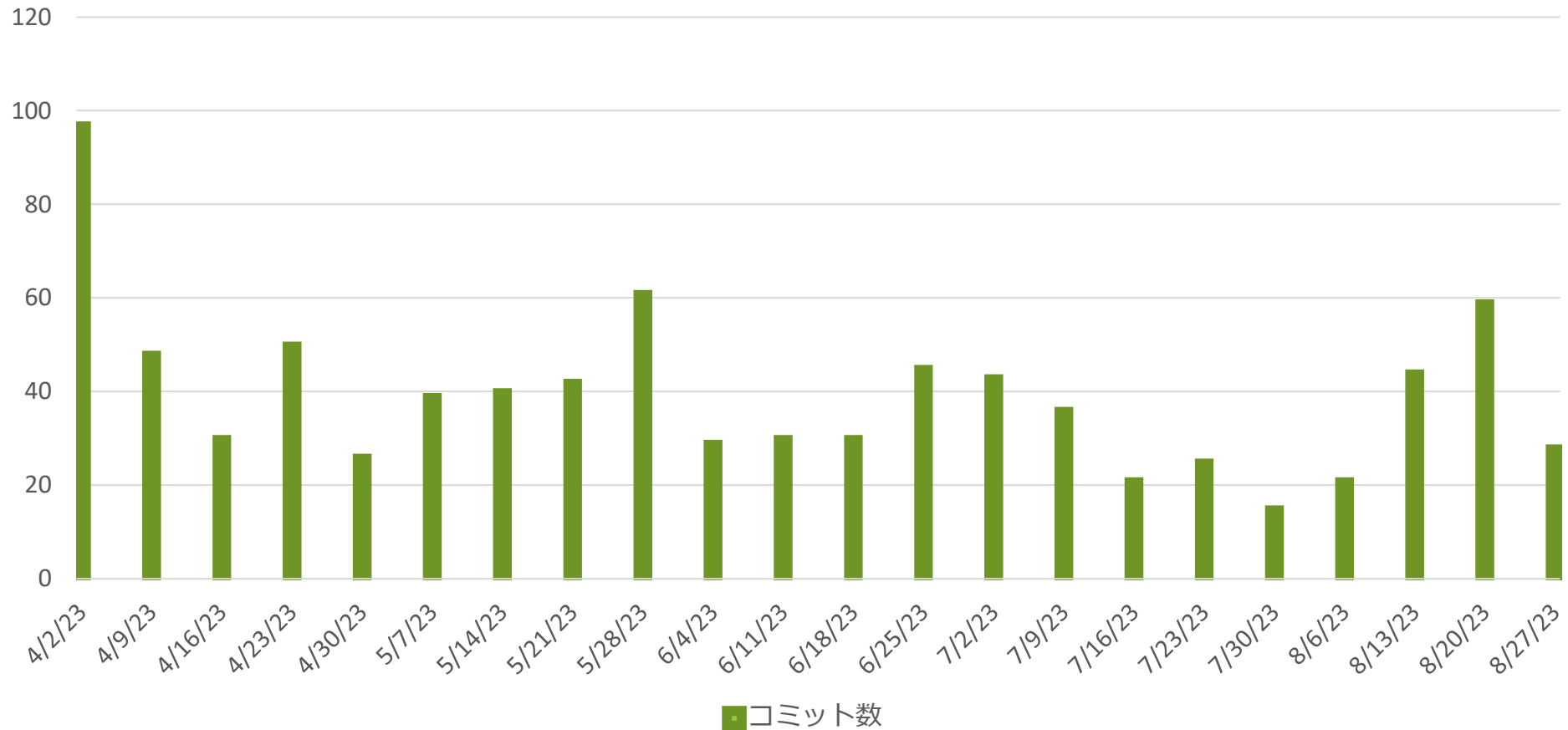


関連サービス



直近半年のアップデート状況

週次アップデート数



DX基盤としてroot ip

ユーザ環境



関連サービス



情報共有／情報発信の取り組み開始

- 情報共有

- ユーザの意見を聞き開発予定を共有する
 - ユーザ
 - 開発要望やバグ報告を伝える
 - 登録済みの開発事項に「いいね」できる
 - root ip
 - ユーザの依頼を開発事項としてシステムに登録
 - 内容や「いいね」に応じて優先度／開発予定をアップデート

新バージョンに実装
2023年内

- 情報発信

- 定期的にアップデート説明動画を配信
- DX開発情報を発信
 - root ip APIを使った基本的な開発方法を紹介
 - 個別ユーザグループも検討中

2024年からスタート



新旧バージョンの相違点

- データ構造
 - 新バージョン切替時に変換処理が必要
 - 検索設定
 - エクスポート設定
- 権限内容
 - 新バージョンの方がよりセキュリティ的に厳密なポリシーを採用
 - 新旧バージョンでプログラム内部構造が大きく異なる
 - 権限による処理内容が一部異なる